

## 新年のごあいさつ

仙北市長 門脇光浩

新年を迎えました。毎年のこととはいえ降雪・除排雪で難儀する季節です。市役所も頑張ります。市民の皆様も、自宅はもちろん近所の高齢者や障がい者、独り暮らしの方々を見守りいただくなど、手を携えながらの助け合いをお願いします。

改めて旧年中のご支援とご協力に心から感謝を申し上げます。さて昨年の「新年のごあいさつ」でお伝えした内容が、1年後の現在どのようになっているか、そして今後の展望などについて、まずお話しをさせていただきます。

所得税の不正還付問題では、市民の皆様本当に辛い思いをさせました。不足となった金額の整理も終え、昨年10月末に必要な額を国へ返還しました。関係の皆様深くお詫びを申

す。少子対策・定住対策には産業の活性化が不可欠です。関係機関の皆様とさらに深く連携し、現在仙北市内で経済活動をする方々の支援を重層化しながら、仙北市の強みを活かせる「観光・農林業の連携と6次産業化」を目指します。イチゴの栽培や加工販売を行う「株」ストロベリーファームの進出が決まり、現在は栽培ハウスを建造中です。第3期工事まで進むと30人以上の雇用が産まれます。今後も果樹など今まで栽培のなかった品目、また新規導入作物の試験を続けます。大規模肥育牛団地の誘致では、情報提供の遅延で地元の皆様にご心配をおかけし、本当に申し訳ありませんでした。皆様との協議を今後も丁寧に継続します。少しお時間をいただきたいと思っております。この他にも異分野で進出を検討いただく企業が数社ありますが、情報の収集・発信に細心の注意を傾注します。さらに今年は、秋田県種苗交換会が初めて仙北市内を会場に開催されます。仙北市農業の躍進起点になることはもちろん、地域にもたらされる経済効果も大いに期待しています。またJR6社全社の「デスティネーション・キャンペーン（DC）」は今年が本番です。全国から秋田への送客事業が集中的に実施さ

し上げます。クニマス里帰りについては、秋田県と協働で設置した「クニマス里帰りプロジェクト」で各種事業を行っています。併せて、田沢湖再生のシンボルとする（仮称）田沢湖ナショナルトラストセンター（田沢湖クニマス史料館）の整備に向けた準備を進めています。その前段に、3月に田沢湖畔でクニマス稚魚の展示と併せた特別企画展を開催します。ぜひご覧ください。東アジアの国際交流は、田沢湖と澄清湖の姉妹湖提携25周年、また玉川温泉と北投温泉提携1周年記念事業で、107人が台湾を訪問しました。

この際、角館高校のおやま囃子同好会に同行をいただき、高校生同士の文化交流も行いました。この文化交流事業後、台湾から仙北市への修学旅行が実現し、今年はさらに修学旅

れ、仙北市はその中心地として役割を果たす準備を進めています。市民の皆様、関係団体の皆様にはご協力をよろしくお願いします。

地域運営体の活動は、第2段階に入った感があります。第1段階は全地区での設立と地区事業の実践でした。これまで行政ですべきことと運営体の活動が混在し、多くの方々からルールづくりを求められていました。今年は運営体連絡協議会での議論を踏まえ、事業区分のガイドラインを制定してスタートします。複数の地域運営体が連携する活動も増えそうです。市立病院では患者の方々からのアンケート調査などで改善点を洗い出したり、病院広報の発刊で病院の今をお伝えする広報広聴活動にも取り組めます。また市立角館総合病院の建替え事業は、基本設計の策定に取りかかります。保育園に入園できずにいた待機（保留）児童の解消、また新たな在宅育児支援制度の設立は間もない状況です。空白域となっていた訪問看護サービスも、実現に向けた取り組みが本格化します。岩手県の震災ガレキの受入れは昨年未だ始まりましたが、冬期間の処分場の積雪を勘案し、今年の再開は雪解け以降となってからです。

この間を利用して、学校給食などの安全性をチェックする仕組みを考えます。市庁舎の整備については、角館庁舎が大変危険な状況であることから、準備が整い次第角館庁舎を移転します。さらに市役所の一元化は、市民の皆様の使い勝手はもちろん、できる限りコンパクトな庁舎（既存施設の再利用も選択肢）を想定して議論を本格化させます。

この間を利用して、学校給食などの安全性をチェクする仕組みを考えます。市庁舎の整備については、角館庁舎が大変危険な状況であることから、準備が整い次第角館庁舎を移転します。さらに市役所の一元化は、市民の皆様の使い勝手はもちろん、できる限りコンパクトな庁舎（既存施設の再利用も選択肢）を想定して議論を本格化させます。

本年も山積した課題の解決に向け、全力で取り組みを進めます。職員の方の奉職意識・サービス力を高め、財源の確保に工夫をこらし、皆様の所得を確保できるよう、経済対策と仕事づくりを強化します。また医療体制の再構築、高齢者や障害者などの生活支援、0歳児から大人までの人育て、どれもこれも放っておくと、仙北市の致命傷になるものばかりです。残念ながら、今の仙北市は他市と比べて未熟な場面が多いのも事実です。故郷を一気に2段・3段とレベルアップするには、並大抵の情熱では叶いません。思いを職員と共有し、また市民の皆様にも協働のまちづくりの大いに参加いただきましたと思っています。

健康にご留意ください。皆様のご1年のご活躍をご祈念します。